

令和7年度稲沢市観光基本計画推進委員会 会議録

【日 時】 令和8年2月19日（木）午後2時～午後4時

【場 所】 稲沢市産業会館1階 大会議室

【出席者】 稲沢市観光基本計画推進委員会委員（敬称略）

| | | |
|------|------|------------------------------|
| 委員長 | 大澤 健 | 和歌山大学経済学部教授 |
| 副委員長 | 鈴木 隆 | 一般社団法人愛知県観光協会専務理事 |
| 委 員 | 栗林芳彦 | 名古屋文理大学情報メディア学部情報メディア学科教授 |
| | 水谷 豊 | 稲沢市観光協会事務局長 |
| | 阿部一洋 | 稲沢商工会議所事務局長 |
| | 小澤康彦 | 祖父江町商工会事務局長 |
| | 岩田 毅 | 愛知西農業協同組合常務理事 |
| | 鈴木康仁 | 尾張大國霊神社権禰宜 |
| | 加藤憲吾 | 国土交通省中部地方整備局木曾川上流河川事務所河川公園課長 |
| | 鈴木太郎 | 愛知県観光コンベンション局観光振興課長 |
| | 原田 雅 | 公募市民 |

【事務局】 内藤邦将 稲沢市経済環境部長
寺澤佳秀 稲沢市経済環境部商工観光課長
小林 敦 稲沢市経済環境部商工観光課主幹
北村有希 稲沢市経済環境部商工観光課主任
山田尚子 稲沢市経済環境部商工観光課主事
酒井仁志 稲沢市観光協会観光コーディネーター兼事務局次長
石井好美 稲沢市観光協会事務局主任

【傍聴者】 1名

【会議次第】

- 1 委員長挨拶
- 2 新委員の紹介
- 3 協議事項
 - (1) 稲沢市観光まちづくりビジョン（第2次稲沢市観光基本計画）の進捗状況について
 - (2) 次年度の取組について
- 4 その他

【会議の概要】

- 1 委員長挨拶
[委員長]

本日はお忙しい中、稲沢市観光基本計画推進委員会に御出席いただき、誠にありがとうございます。本日は、観光協会並びに市役所商工観光課にご報告いただいて、進捗状況を確認するという事で大変楽しみにしております。

先日愛知県で開催された愛知観光まちづくりフォーラムにて講演する機会があり、そのなかで、愛知県で観光に取り組む成功例として稲沢市のお話をさせていただきました。もちろん、成功例として紹介はしましたが、まだまだこれからやるべきことがたくさんあると思いますので、本日委員の皆様からいただくご意見を踏まえて取り組んでいきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

2 新委員の紹介

前任委員の異動等に伴い、新たに選任いただいた委員4名の紹介

3 協議事項

- (1) 稲沢市観光まちづくりビジョン（第2次稲沢市観光基本計画）の進捗状況について
- (2) 次年度の取組について

[事務局]

資料「稲沢市観光まちづくりビジョン（第2次稲沢市観光基本計画）後期計画 アクションプラン進捗状況」に基づき説明

【質疑応答及び各委員からの取り組みに対する意見】

[委員①]

市の一つの取組として、今年度織田信長サミットに加盟し、天童市で開催された第31回織田信長サミットに参加されたと聞いているが、稲沢市が、歴史と文化を生かしたまちづくりを進めるために検討する武将観光メニューの参考となるような他の自治体の取組みがあればご紹介いただければと思う。

[事務局（市）]

稲沢市では、織田信長公生誕の地としての歴史的価値を持つ「勝幡城」のPRを積極的に行っており、その一環として毎年、パシフィコ横浜で開催される「お城 EXPO」に参加している。

「お城 EXPO」には毎年、全国各地を巡る「出張！お城 EXPO」という形態のイベントもあり、直近では近江八幡市で開催されている。このような出張イベントは、各地で地域の城をPRする良い機会となっており、今後稲沢市としても「出張！お城 EXPO」の開催を視野に入れ、近江八幡市等を参考に、勝幡城の魅力を全国に発信するための方策を検討したいと考えている。こういった取り組みを通じて、全国の観光地や城好きな人々に対して、勝幡城の歴史的価値や地域の特性を伝えるとともに、観光促進や地域活性化を目指す取り組みを進めていきたい。

[委員長]

信長サミットでは具体的には何をするのか。

[事務局（市）]

現在 11 市町で構成されており、信長に関係する市町村が集まり隔年で開催地を回して順番に開催している。今回、山形県天童市にて開催された。天童市は将棋の駒の生産で有名であるため、毎年天童桜まつりのなかで人間将棋を開催しており、そのイベントのなかで織田信長サミットも開催した。その後、織田家ゆかりのお寺にて構成市町が集まって意見交換をした。こういったものに加盟することで、いろいろな情報交換もでき、織田信長生誕の地・稲沢を発信していくことができると考え、今後も継続して進めていきたいと思う。

[委員長]

勝幡城に関しては、ラボ活動の一つである「ヤバ稲オンパク」のなかでもいくつかプログラムがあり、外から見ると盛り上がっているように見えるが、事務局としてはどう感じているか。

[事務局（市）]

「ヤバ稲オンパク」のプログラムでは、ラボのメンバーに歴史をしっかりと PR をしていただくことができた。稲沢市としてもこれから勝幡城をどう PR していくか考えていきたい。

[事務局（観光協会）]

「ヤバ稲オンパク」については、現在春プランを作成中である。織田信長が生まれたのが 1534 年ということで、地元では信長生誕 500 年祭を祝っていこうという動きがあり、その第一弾として、誕生日である 5/28 にヤバ稲オンパク春プランのプログラムとして信長の誕生日を祝うというものを考えている方もいて、そういう意味で言うと盛り上がってきていると言える。

[委員②]

「稲沢のカレーvol.2」について、表紙が同じであるため刷新されていることに気が付かなかった。せっかくお金をかけて発信をしているので、新しい情報なのであれば“新しい”ということアピールして手に取っていただくほうが有益ではないかと思う。何か理由はあるか。

[事務局（観光協会）]

デザインを変えるとそれなりに経費がかかるため、ある程度そのまま使えるところは使っているというのが実態。いただいた意見は参考意見として承り、vol.3 を作る際に考えていきたい。

[委員長]

メニューが変わったりお店が変わったりで難しいかもしれないが、文字を大きくしたり、「何年版」と標記したりして、“新しい”ということが分かるようにするのも一つの方法だと思う。

[事務局（市）]

パンフレットを置くスペースにポップ等で“新しい”ということをアピールするのも良いと思うので、今後検討していきたい。

[委員③]

農業が取り巻く環境は非常に厳しいものになってきている。特に稲沢市だと、植木や銀杏を観光の観点からもぜひPRしていただきたいと思っている。

[委員長]

TORETATE 市の出店者数はどのくらいか。

[事務局（市）]

直近の開催では 20 店舗程度。TORETATE 市は農務課が中心でやっており、出店者も農務課で募集している。開催時期は地域ステーションという稲沢市役所でリサイクルゴミの収集を行う日に合わせているため、そういう面からも集客がある。前は衆議院選挙と重なったため投票に来た人にも寄っていただけた。固定客がついたお店もあり、徐々に盛り上がりを見せている。

[委員④]

祖父江と言えばやはりイチョウ。今年もそぶえイチョウ黄葉まつりを開催したが、非常に多くの来場者であった。駐車場が少ないため、毎年路上駐車が多い。近隣の住民の生活に支障をきたすため、巡回する警備員やカラーコーンを増やして対策を講じていきたい。

[委員⑤]

イベントでの駐車場問題は、他市町では有料で対応していたりするが、商工会議所でやっている稲沢まつり等でも、有料というところに一步踏み出せない。たとえシャトルバスを走らせても、まつりのスケール感から考えると近いところに停めてしまうのが現状。結局は警備員を増やすことが解決策になるのではないかと思う。警備員を増やすには予算がない、予算がないなら駐車場を有料化し警備料に回す、というようなサイクルが可能になれば抜本的な解決になると思う。

また、稲沢まつり会場では軽トラ市を開催しているが、ニーズは野菜が多い。野菜も大事な農産品だが、植木の売り先がなく植木産業が盛り上がっていない。ぜひ TORETATE 市にも植木生産者の出店を呼びかけて盛り上がりに繋がると良い。

[委員長]

実際、TORETATE 市には植木や苗木の出店はあるのか。売れそうな気はする。

[事務局（市）]

市内に取り扱っている人や店はあるが、TORETATE 市では植木や苗木までの取扱いは見られない。いただいたご意見については、農務課と共有する。

[委員①]

SNS での PR では若者が中心となって見ていただけるが、高齢者等の SNS を見ない方に対しては紙のチラシが効果的で、観光協会としては両方に力を入れて PR している。メディアにおいては、カレーフェスティバルの際も「こういうことがありました」という報道はあったが、事前告知はなかなかしてもらえない。できれば先行して大手マスコミ等で PR してもらえるように考えていかなければいけないと感じているので、何か案があれば教えてほしい。

[委員⑥]

プレイベントはどうか。本番のイベントの前にミニイベントを行い、そこに取材に来てもらうことによって、本番のイベントへの集客に繋がる。

また「ヤバ稲オンパク」のパンフレットを見て一番感心したプランは「自転車で巡る国府宮」。自分は一宮市から通勤しているが、稲沢市の田園風景は魅力的で、そういったものを味わってもらおうプランはとても良いと思う。

観光の先に何があるのか考えたときに、稲沢市というまちに魅力を感じ、あわよくば住んでもらえれば良い。そういった意味では、国府宮に限らず自転車で回ってまちを見てもらうということは効果的だと思う。特に稲沢市は坂がなく自転車を漕ぐことに向いているので、PR の手段として考えてほしい。

[委員長]

プレイベントはとても良いと思う。この後ラボの会議もあるので「ヤバ稲オンパク」についてもそういったことができないか話してみる。また、国府宮神社での成功祈願・集客祈願の参拝をするというのも良い。

「自転車で巡る国府宮」のプランは誰が考えたのか。

[事務局（市）]

事務局も一度やってみようという思いで提案したもの。真夏での開催ということもあり景色を楽しむということはあまりしていなかったが、言われてみると稲穂が実る頃の見事な景色はどこにでもあるわけではないと思う。自転車は世代等に関わらず誰でも参加できるので、そういったことも今後プランを検討するなかで考えていきたい。

[委員⑦]

稲沢市は、観光をまちづくりの手段として捉えているところが非常に良い。先ほどの説明の中で、実施主体が市や観光協会、商工会等の活動実績の紹介があったが、例えば実施主体が市民団体になっているところが参加して良い結果が得られたようなものがあればご紹介いただければと思う。

[事務局（市）]

オンパクに限って話をすると、オンパク開催後のラボメンバーの反応をみると非常に良かった

ように思う。一部のプランではラボメンバーではない他団体の方にも協力いただいて、そういう意味では良い繋がりができたように思う。

[委員⑧]

24ページの「アクションプラン：イベント民泊の実施」について、具体的な検討に至らなかったということだが、これについては神社にも問い合わせを多くいただいているところで、はだか祭前になると特に多い。難しいところではあるが、今後どのように検討されていく予定なのか。

[事務局（市）]

現在すぐお示しできるものはございません。今後の検討事項とさせていただきます。

[委員長]

やりたい人はいるような気はする。はだか祭については、女性も参加可能になったということだが、参加者は増えたのか。

[委員⑧]

多少増えてきたが、コロナ前に比べるとまだ戻ってきてはいない。

[委員⑨]

現在、自転車で繋ぐかわまちづくりということで、稲沢市も含めた木曾川中流域の12市町で検討を進めている。河川敷だけではなく、それを起点にまちの中への回遊線も作っていったらと思う。

[事務局（市）]

各市町の道路部門と観光部門の部署が合同で会議を行って、サイクルルートの整備を検討している。さらに、一宮市と稲沢市でつながるサイクルルートの整備を3年間かけてやっていくという計画もあり、引き続き他市町と連携を強めながら検討を進めていきたい。

[委員長]

木曾川に関しては、資料のなかにも一部出てくるが、タキドキという団体もある。一宮市と稲沢市で連携しながら木曾川流域を盛り上げていくために立ち上がった組織で、この動きがこれからもっと高まったら面白いと思う。

[委員⑩]

手段として観光があるという考え方はとても良く、我々としても産業県である愛知県でどう観光客を増やすかということは課題に感じていることで、観光地ではない自治体が“観光”という切り口からどう地域を活性化していくのかという視点で様々な取組をすることは非常に重要なことだと思う。

現在放映されている大河ドラマ「豊臣兄弟！」によって愛知県の歴史が注目される年になるのではないかと思います。また、県内だけではなく京都府や滋賀県と連携して広域で周遊してもらうような仕組みを検討しており、稲沢市に関して、市内に多数の歴史資源があると思うが、ぜひ自治体同士で連携するという事も視野に入れていただきたい。

また、愛知県では首都圏や県内での観光展や商談会の開催しており、こうした場もぜひ活用して積極的に出展してほしい。BtoBでPRする方法もある。

一点質問だが、インバウンドは全国で年々増加しているなかで、稲沢市でインバウンド誘致に向けた現状の認識と今後の動きで何か検討していることがあるか。

[事務局（市）]

2/7に初めてインバウンドツアーを行ったが、これには二つの目的を持って取り組んだ。一つ目に、この地域をどう紹介するか。二つ目に、このようなことをやることによって、どうやって目を向けてもらえるか試してみたかった。愛知県ですら県内だけの観光で止めようとはされていないという認識で、これは実際稲沢市でツアーをやってみて痛感したところでもある。広域でのルートの設定は必要だと感じた。現在はどうやって取組むのか試行錯誤を始めたところであるため、これから広域での連携も含めてインバウンドの対応を進めていきたい。

[委員長]

イチョウと植木はキラーコンテンツになる可能性が高いので、インバウンドはぜひやっていただきたい。

[委員②]

既にカレーフェスティバルに来場している人は、チラシを手にとったりSNSを見たり、選択をして自分で情報を取りに行っている人だと思う。情報を取りに行っていない人を漏らさずに来場してもらうことが大事だと思う。例えば国府宮駅の改札口に大きなポスターを貼って、利用者に“見る・見ない”の選択をしなくても情報が入るような状況を作ると潜在顧客に情報が伝わるので、チラシの枚数を減らしてそういうものにコストを割いても良いと思う。

[事務局（協会）]

情報が届いていない人にいかに情報を届けるかというのは大きな課題だと認識しているので、いただいたご意見を参考に、出来ることからやっていきたいと思う。

[委員長]

観光まちづくりビジョンを改めて見てみると数値目標の記載があるが、これに対する検討はないか。

[事務局（市）]

回答ができる状態ではないため、今後何らかの形で共有させていただく。

[委員長]

数字は目的ではないが、成果検証の意味では必要だと思う。狙っているところに効果が出ているということは、稲沢市が盛り上がっていることを数値で見ることが出来るのでぜひやってほしい。

それでは、意見は出尽くしたようなので、事務局は本委員会での意見を踏まえ、観光まちづくりビジョンの推進に努めていただくようお願いしたい。

4 その他

[事務局（観光協会）]

稲沢市観光協会から、第20回いなざわ梅まつり（3月7日・8日／愛知県植木センター）、にっぽん城まつり（2月28日・3月1日／吹上ホール）について紹介。

[事務局（市）]

委員の皆様は2年間で令和8年2月末までとなるが、今後も引き続きご支援とご助言をいただきながら、「観光まちづくり」のさらなる推進に繋げていきたいと考えている。公募委員を除く委員の皆様については、基本的には引き続き委員としてご就任いただきたいので、後日改めて正式に委員就任のお願いをする。年度替わりの人事異動などで交代となる方には、後任の方への引継ぎと事務局への連絡をお願いできればと思う。

なお、「第2次稲沢市観光基本計画（稲沢市観光まちづくりビジョン）」の計画期間は令和9年度までの10年間となるため、次期計画である「第3次稲沢市観光基本計画」の策定に向け、策定委員会の準備を進めているところである。策定に当たっては、現行計画の進捗状況を踏まえた検討が重要であることから、委員の皆様には引き続き推進委員会の委員に加え、策定委員会の委員についても兼務していただきたいと考えている。こちらについても、後日改めて正式に依頼させていただく。

以上